

オピオイド不応の疼痛に対して甘麦大棗湯が有効であった 1 症例

1. 研究の対象

甘麦大棗湯を使用された患者さんを対象とします。

2. 研究目的・方法

トータルペインには、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペインの 4 つの苦痛があり、痛みは身体的苦痛だけでなくそれぞれの側面が関連・影響しあっているためそれぞれの側面の問題点を解決することが重要とされています。一方、AYA 世代のがん患者はライフイベントの変化があり、心理的なサポートが喫緊の課題です。

東洋医学の概念である「五臓」のうちの「心」は、意識を保ち精神を安定させる働きがあり、「心」の働きが衰えるとイライラや不安・不眠などが現れることがあります。甘麦大棗湯はそういった「心」の失調状態に対し用いられる方剤です。

精神的苦痛・スピリチュアルペインの観点からアプローチすることで良質な疼痛コントロールが得られる可能性があります。

今回、AYA 世代患者のオピオイド不応の疼痛に対して、甘麦大棗湯の有効性について確認する研究を企画しました。

具体的には、当院電子カルテに記載された診察記事、検温表、臨床検査値、退院時サマリ等から NRS 推移状況や患者背景など各種情報を得ます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号、採血データ 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 薬局 戸島 心 (研究責任者)

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

-----以上